

平成27年度 「中学生チャレンジテスト」における 矢田西中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成28年1月13日（水）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 矢田西中学校では、第1学年44名、第2学年40名

3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成27年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立矢田西中学校

【 第 1 学 年 】

生徒数(人)

44

平均点（点）

平均無解答率（%）

	国語	数学	英語
学校	59.7	53.8	57.8
大阪市	60.4	49.7	62.2
大阪府	61.0	51.0	63.5

	国語	数学	英語
学校	4.3	0.9	2.0
大阪市	6.7	4.9	3.4
大阪府	6.3	5.0	3.5

結果の概要

- 数学は大阪府平均を2.8ポイント上回ったが、国語・英語は1.3~5.7ポイント低くなっている。
- 平均無回答率は、3教科ともに大阪府平均より1.5~4.1%低くなっている。
- 生徒質問紙からは、国語・数学について授業の内容がよくわかるという質問に対し、当てはまる(どちらかといえば当てはまる)という肯定的な回答をする割合が大阪府平均より上回った。

成果と今後取り組むべき課題

- 規律ある学校生活が維持され、落ち着いた状況で学習に取り組めている。
- 国語においては、「書くこと」の領域について、また、英語においては「書くこと」を中心に他の領域においても課題が残り、これから重点的に指導する必要がある。
- 教員の授業力のさらなる向上を図るとともに、家庭と協力し、自主的な学習習慣を構築していく必要がある。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人)

40

平均点（点）

平均無解答率（%）

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	46.8	54.4	54.6	40.0	49.2
大阪市	47.8	56.4	53.7	45.4	52.9
大阪府	49.2	56.5	54.7	46.5	54.8

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	15.6	7.7	8.0	8.3	5.1
大阪市	13.3	6.4	8.2	7.0	4.2
大阪府	12.4	6.5	8.0	6.9	4.1

結果の概要

- 数学はほぼ大阪府平均であったが、他の教科は2.1~6.5ポイント低くなっている。
- 平均無回答率も、数学を除いて大阪府平均より1.0~3.2%高くなっている。
- 生徒質問紙からは、国語・社会・数学・英語については、授業の内容がよくわかるという質問に対し、当てはまる(どちらかといえば当てはまる)という肯定的な回答をする割合が大阪府平均を上回った。

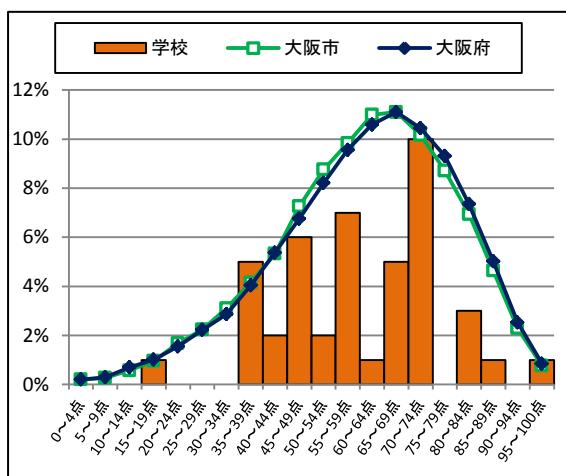
成果と今後取り組むべき課題

- 規律ある学校生活が維持され、落ち着いた状況で学習に取り組めている。
- 教科によってばらつきはあるものの、生徒の「授業がよくわかる」という肯定的な結果が反映していない面がある。また、平均無解答率も高く、今後の課題が残る。
- 教員の授業力のさらなる向上を図るとともに、家庭と協力し、自主的な学習習慣を構築していく必要がある。

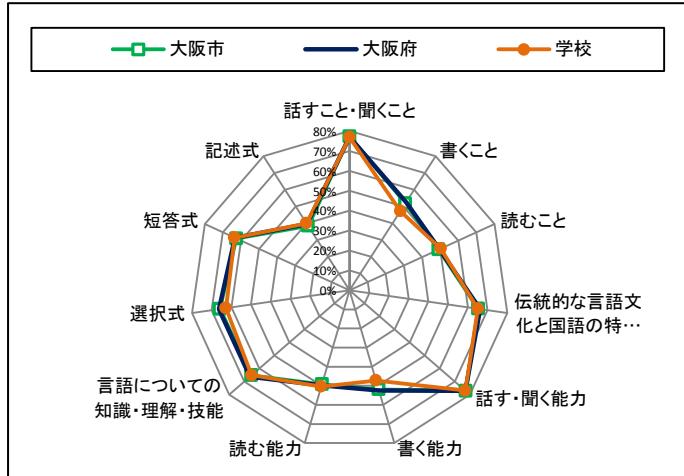
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

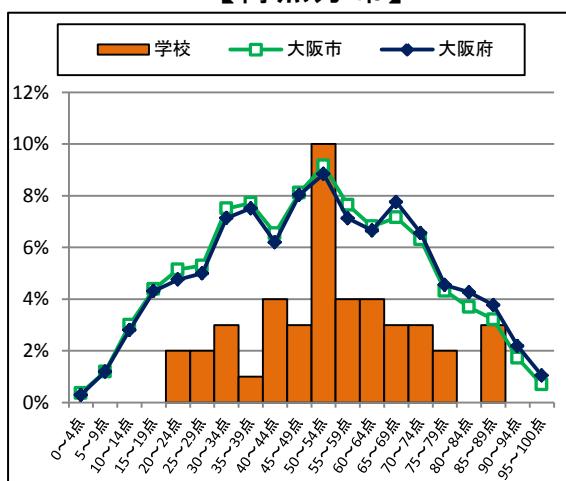


【領域・観点・問題別の分布】

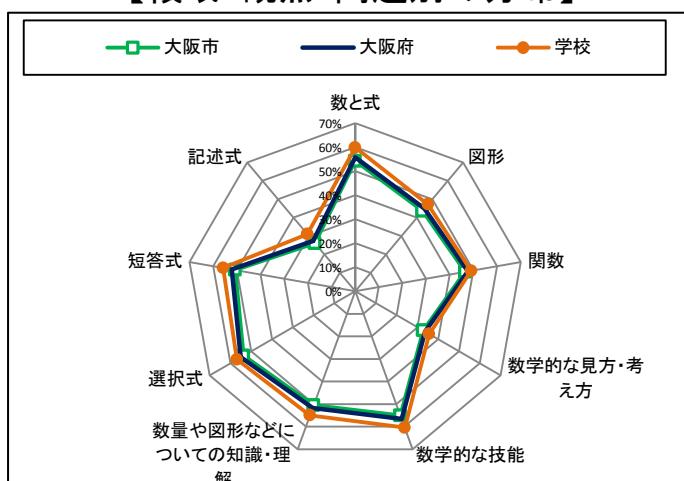


【数学】

【得点分布】

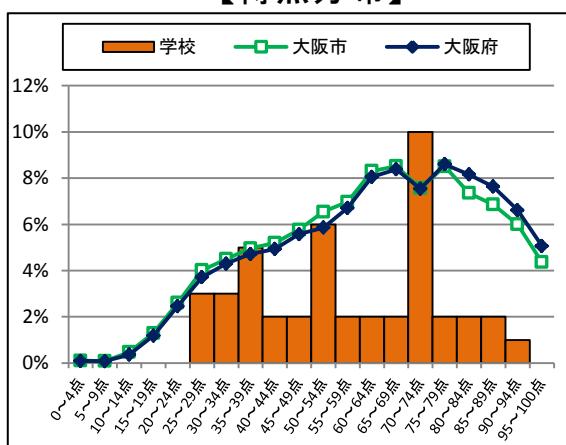


【領域・観点・問題別の分布】

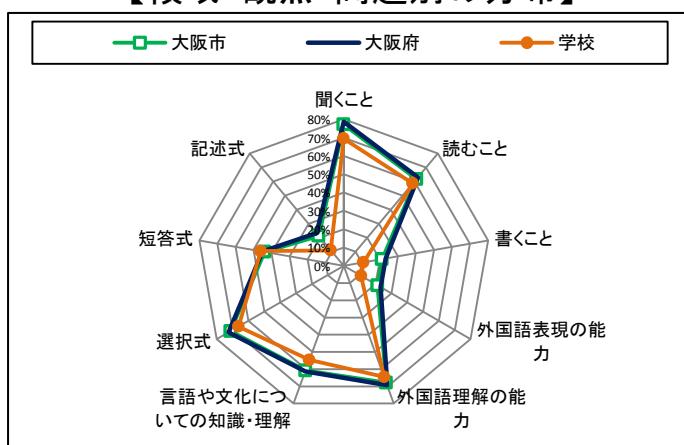


【英語】

【得点分布】



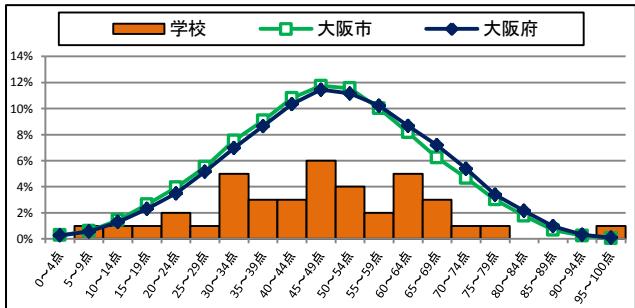
【領域・観点・問題別の分布】



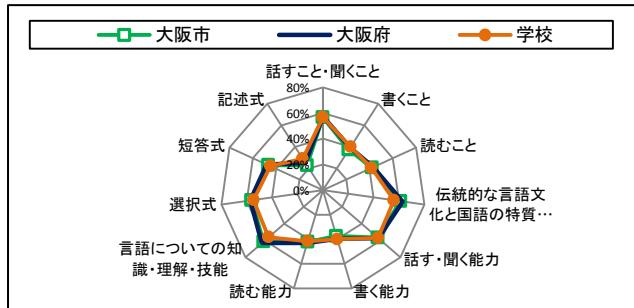
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

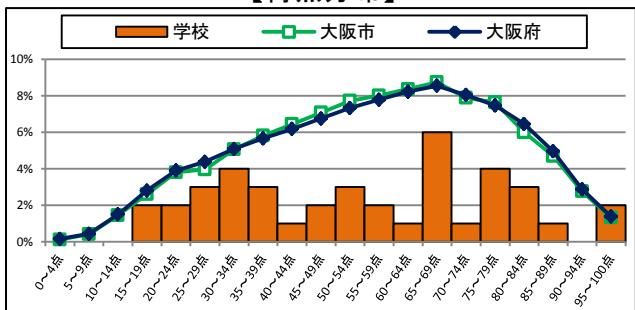


【領域・観点・問題別の分布】

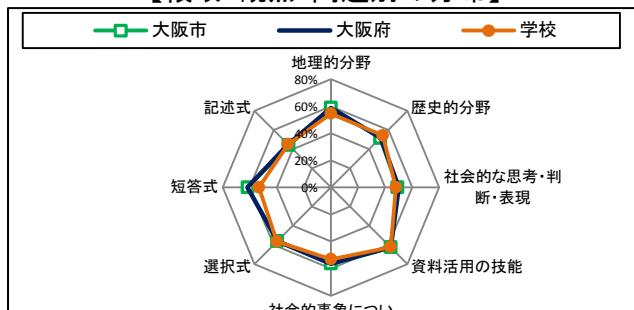


【社会A】

【得点分布】

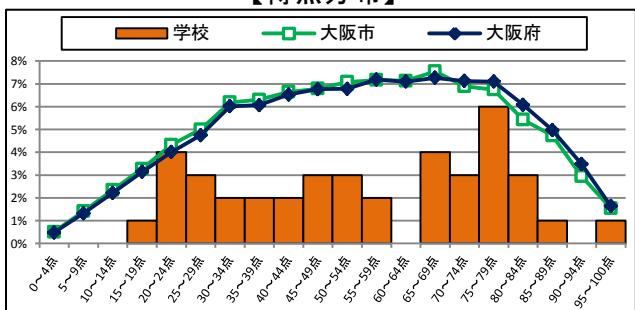


【領域・観点・問題別の分布】

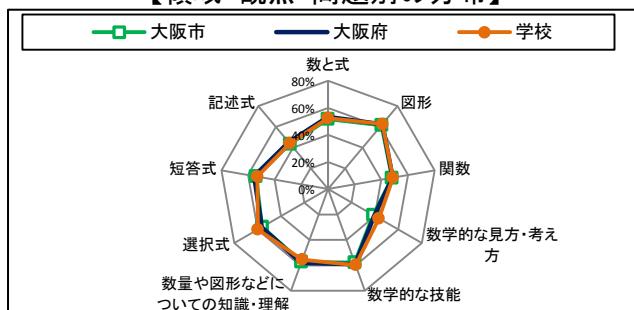


【数学】

【得点分布】

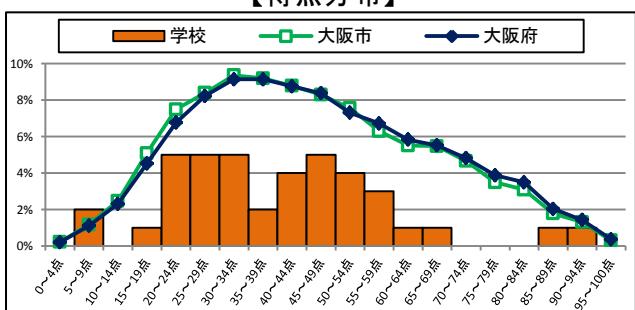


【領域・観点・問題別の分布】

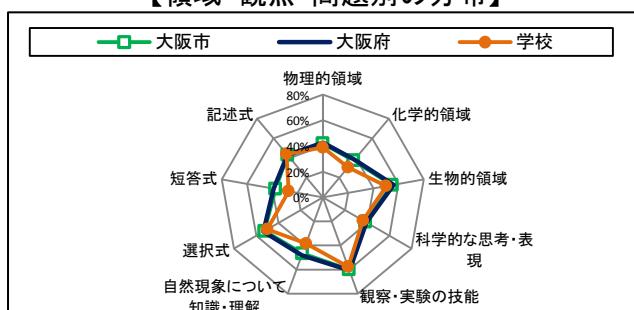


【理科A】

【得点分布】

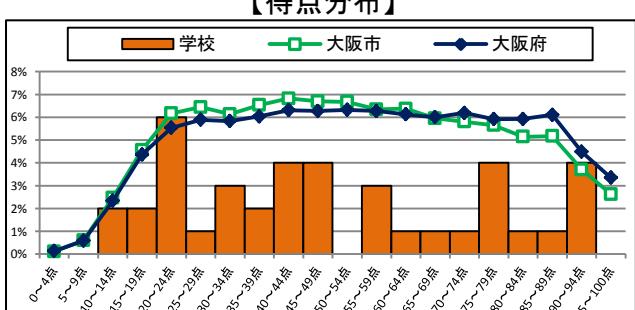


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

